

いまこそ

農業に

女性の力を！

It's fun to farm!

皆さんの周りには、農業をいきいきと営んでいる女性はいますか？

今後の農業の発展と地域経済の活性化のためには、生活者の視点や多彩な能力を持つ女性農業者が力を発揮していけるような、環境づくりが重要となっています。

今回は、弘前市で活躍する女性農業者と女性農業委員・農地利用最適化推進委員の活動を紹介します、農業に携わる女性たちが描く未来にせまります。

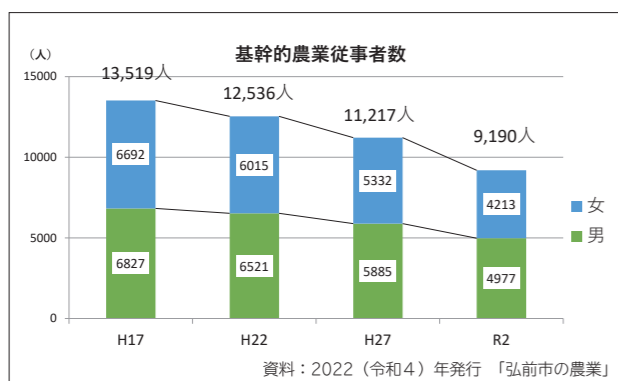
■問い合わせ先 農政課 ☎40-0656



弘前市の基幹的農業従事者数 (2020 (令和2) 年時点)

男 4,977 人 (54.2%)

女 4,213 人 (45.8%)



基幹的農業従事者…15歳以上の世帯員のうち、ふだん仕事として主に自営農業に従事している人

市内の農業従事者数は、2015 (平成27) 年に1万1,217人でしたが、2020 (令和2) 年には9,190人となり、1万人を下回りました。

新規就農を
応援します！

年々、従事者が減少していく農業において、女性は基幹的農業従事者の約4割を占める重要な担い手となっており、若手農業者を対象とするさまざまな支援制度を活用した女性農業者も、活躍の場を広げています。

◎新規就農を支援する制度の例…経営開始資金

▼対象 就農時の年齢が原則49歳以下の認定新規就農者であることなど一定の要件を満たす人

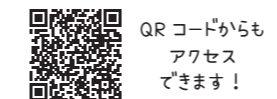
▼金額 経営開始から最長3年間、月12万5,000円 (年間最大150万円)

※夫婦ともに就農する場合…夫婦合わせて1.5人分 (年間最大225万円)。

次のページでお話を伺っている対馬さんと三上さんも、経営開始資金 (旧農業次世代人材投資資金) を活用して農業を始めました。

新規就農者を支援するさまざまな制度も、市ホームページ内で紹介しています。

「新規就農
情報ポータル」
で検索！



高齢の祖父の園地を未来につなぐギャルママ
対馬 絵理さん (Tsushi's FARM)

生産物
りんご・桃・その他果樹



女性の声を農業に！

高齢の祖父が営んでいたりんご園地の後継ぎがいなくて、一念発起して夫婦で農業を始めました。

当初は、栽培知識の不足による病害虫の発生や生育不良に悩まされました。農業を始めて今年で6年。今では、先輩農家などいろいろな人から教わった知識のおかげで、おいしいりんご

を安定して生産できるようになりました。農業をやっているよりも嬉しいのは、りんごを買ってくれた人からの喜びの声を聞けること。

自分らしさを発揮できたと感じたのは、りんごの即売会などでお客さんに声をかけてもらいやすいことや商品の梱包などに細かい気配りができること、SNSを活用した情報発信ができること。

今後は、農地の拡大、女性従業員の雇用促進、直売イベントの実施、飲食店の経営などを視野に入れていきます。これからも研修会や講習会などに積極的に参加して、スキルアップや仲間づくりをしていきたいです！



▲ Tsushi's FARM @erichi.n
ホームページ



夫婦で野菜の生産&民宿を経営する元自衛官
三上 瑠菜さん (るなファーム/民宿ずだらっと)

生産物
ピーマン・ネギ

農業は楽しい！

私は、弘前実業高校農業経営科を卒業後、郡山駐屯地で自衛官を務めた後、弘前市内でウェディングプランナーとして働いていましたが、高校で学んだ農業をいずれやりたいと思っていたので、5年前に農業をはじめました。

就農開始当初は農業機械がそろわず、とても苦労しました。一日中、広い畑にじょうろで必死に水をまいたことも…。

現在は、必要最低限の農業機械や農地がそろったので、安定した野菜の収穫量の確保を目指しています。

また、子育て世代の友人たちに声をかけ、子どもたちに野菜の収穫体験をしてもらうなど、楽しく農業を行うことができています。

直売イベントで、自分の作った下仁田ネギを買おうとするお客さんの行列ができた時は、とても嬉しかったですね。これからも夫と力を合わせて、新鮮で安心な野菜を弘前の皆さんをはじめ、たくさんの人に届けたいです。この先も弘前で楽しく農業を続けていきます！



▲ずだらっと
ホームページ @zudaratto

